

四十四 ○○家大祓祭詞

此の所に神籠立てて招ぎ奉り令坐奉る掛け巻くも畏

き親神天理王命の御前に恐み恐みも白さく

親神の広き厚き御恵みを嬉しび奉り辱けなみ奉り

家はも朝な夕ないと睦じく明るく暮らされ

生業の道も極めて順調に営まれしが お陰様でここ

市 区 丁目 番 号なる宅地

平方米の上に新しく建てられし木造カラーベスト

コロナ葺二階建サイディングボード外壁

平方米なる住宅を求められ 今日を生日の足日と大祓

の御祭仕え奉り 御酒御食味物を捧げ奉りて拜み奉ら

くを諾い聞食し給い これより後も幾久しく家族親族

共々身も心も壮健に起き伏し給わむ事はしもとより

雨風の難み天災地変の災あらむにも揺ぎ損なわるる

事なく波布虫の禍あらしめ給わず 千代万代に堅磐に

常磐に守り幸い給い それぐが埃を払い心を澄まし

持場立場を通し更に世の為人の為につとめ労かむとす

る 家の陽気ぐらしの姿を周囲の社会に次々と

移し給えと恐み恐みも乞い祈み奉らくと白す